



【2面から】より選択的夫婦別姓が進まない県になったことや、小規模事業者・中小業者はインボイスで苦しんでいることなどを、現場の方々の集会や宣伝の取材で直接声を聞いてきました。民医連・医労連・高教組・香教組などの取材から「民営化や独立行政法人化予算削減で、教育・医療・看護・介護・保育・社会保障など公共サービスが壊れてきている現場の実態」を学びました。これはまぎれもなく自公政権が富裕層・大企業を優遇する一方で、教育・社会保障などの公共サービスの予算を削り、アメリカ力言いなりに軍事費のみ突出させた「戦争をする国づくり」を進めてきたからで、政治の責任です。ここを「大本から、香川、西日本から日本の政治を変え

る」というのが立候補の主旨です。

Q. 主に訴えたい政策はなにですか？

A. 「みんながご飯をきちんと食べられて、戦争や貧困や差別なく平和に暮らせる政治にしよう」との政策コンセプトです。一つは、生活・暮らしの問題、もう一つは反戦平和です。いま物価高、コメ不足や高騰など生活や暮らしに関わる問題が多くみなさんを苦しめています。生活や生存権を保障しなければなりません。例えば、財源論のある日本共産党の消費税減税政策で緊急に5%に消費税を減税し、その後廃止するという政策は大事です。緊急の5%への減税でも、ひとり年平均12万円も減税効果が出ます。国民の手取りを増や

すには収入を増やすか支出を減らす2パターンありますが、さまざまメニューを考え緊急で取り組まないと、少ない年金生活の方や、収入の少ない世帯の方々の生活はいまとても差し迫ったものがあると思います。

次に、反戦平和ですが、自公政権による安保法制の強行採決から10年。安保三文書の具体化と実践として、日本と多国籍間の軍事演習、日本各地での基地強化、地下化、特定利用空港・港灣の指定など、戦争する準備が着々と進められています。経済格差・貧困、食糧・エネルギー問題などさまざまな先に解決すべき課題に注力せずに、軍事費だけに突出して予算をつぎ込んで、国民の安全は守れません。党の「東アジア平和提言」など対話外交が必要で、心から「平和憲法や立憲主義に基づいた平和を希求する政治を」と、「戦争だけはしてはならない」と訴えていき

ます。

Q. 日本共産党に入った経緯は？

A. 以前は個人で政治参加できると思っていました。政治運動をおこして、活動を支部や地区など全県チームで継続する組織を持ち、また党内外と同じ志の人と協力、共同をする「統一戦線」を綱領に持っているのが日本共産党です。「市民と野党の共闘」を進める上での要（かなめ）や基軸となる日本共産党を伸ばしてこそ日本の政治を変える可能性が広がる話の話し合いで合意に至り、山田支部の泉敏裕さんと、2016参議院議員選挙野党統一候補

参加してきました。今ではしんぶん赤旗の県記者となり、香川の市民連合の取材などに関わるようになりました。主権者国民の一人として、「市民と野党共闘」の再構築を切に望んでいます。参政権を行使する参議院議員の候補者としては、「市民と野党の共闘」で安保法制の破棄は一丁目一番地ですし、立憲主義を守らなければなりません。自公政権に正面から向き合い、市民と野党で協力することはとても大事です。しかし一方で、与党の予算や法案に賛成して、与党をアシストする政党は野党とはいえません。また、自党の利益だけを【4面につづく】

白川よう子 日本共産党 元香川県議

なが お 長尾まさき 眞希 日本共産党 香川県委員

こく た 穀田恵二 けいじ 日本共産党 前衆議院議員

日本共産党演説会

日時 6月22日(日) AM11時～

場所 コトデン瓦町駅前

消費税は5%に急ぎ引き下げを

2025参議院選挙香川選挙区 「長尾まさき候補の横顔」

本年夏の参議院選挙を目前に、日本共産党公認の香川選挙区予定候補の長尾まさき（眞希）さん（36歳・新人・高松市東植田町在住）の横顔に迫り、インタビューをお伝えします。

Q. まずは簡単に自己紹介をどうぞ

A. 取材する側からされる側になり、恐縮です。党県委員、しんぶん赤旗の長尾まさきです。生まれ育ちはここ香川。2011年に政治オタクになり、大学時代に安保法制に反対する香川大学有志の会や市民連合@かがわに参加しました。「主権者として国民の政治意志をどうやって政治に反

映させるか」と、国民の立場や考えを想像もしない政治をずっと考え続けてきました。5年前にアクシヨンを起こしたのが、日本共産党への入党です。東部地区・県専従活動家・しんぶん赤旗記者など、政治活動を仕事にできて、「政治はひどいけど、自分は無力でなく微力はある、みんなとまじは民主主義を取り戻そう」と多少なりとも力を発揮できていることや、展望や希望を同志や諸先輩方と共有し政治活動ができていくことに感謝しています。

Q. なぜ立候補しましたか？

A. しんぶん赤旗の取材で民主団体の県労連、民商、新婦人、憲法会議、郷土かがわを戦場にするな！県民連絡会、民青などたくさんの方の団体を取材しました。例えば、労働者の環境が壊され、県政に【3面につづく】

香川県保険医協会は全国保険医団体連合会の呼びかけに応じて、昨年12月2日以降のマイナ保険証利用に係る実態調査を、本年の2月末から3月中旬に実施しました。医科・歯科開業の保険医協会会



直近のマイナ保険証の利用率は「30%未満」が65%（全国は70%）

マイナ保険証が患者や医療機関の利便性を考えて導入されたものでないことを端的に表しているのは、その利用率です。今回の香川の調査でも、65%を超える医療機関で、マイナ保険証の利用率が30%未満でした。

「マイナ保険証にメリットを感じる」医療機関は25%

非常に象徴的だったのは「マイナ保険証の導入にメリットを感じるか」との問いに対して、「感じる」との回答が25・4%（全国的

にも26・5%）にとどまったことです。また、「窓口業務の負担は？」との問いには、「とても負担を感じる20・6%」と「負担を感じる47・6%」を合わせた78・2%、67・6%にも達し、7割近くの医療機関がマイナ保険証の扱いに「困っている」実態も明らかになりました。

受付でのトラブルも医療機関の9割が経験

回答した医療機関の多く（約9割）が受付でのトラブルを経験していました。その内容も、保険の資格情報が無効29・5%、被保険者の情報が読み込めず（くろまる）が表示される77・0%、読取り機器の接続不良エラー55・7%、マイナ保険証の有効期限切れ42・6%など、基本的な問題が解決されていないことを伺わせるものが多数を占めました。

いま社会保障はどうなっているのか 医療現場からの現状報告②

【マイナ保険証利用に関する調査より】

香川県保険医協会事務局長代行 篠崎 文雄

従来の保険証について65%が復活・併用を望む

こうしたトラブルへの対処方法（複数回答）で最も多かったのは、「持ち合わせていた健康保険証で確認」の73・8%で、「前回来院時の情報をもとに対応」の31・1%、「資格情報のお知らせで確認」の24・6%を大きく引き離しています。要するに、実体としては、「頼れるのは健康保険証」だと言つていいです。そのため、「従来の保険証を復活し併用できるようにすべき」と言つ声も65・1%と高く「復活を望まない」の9・5%を大きく上回りました。

《お詫び》

5月25日発行の民主香川2025号の2面で、藤原高明香川県協会の副会長を「副会長」と誤記して訂正いたします。民主香川社